

# 日本語学会第 161 回大会 プログラム

会 長 田窪 行則  
大会運営委員長 伊藤 さとみ  
大会実行委員長 豊島 孝之

期 日：2020 年 11 月 21 日（土）・22 日（日）

会 場：Zoom

E-mail：[lsj@nacos.com](mailto:lsj@nacos.com)（開催期間中を除く。開催中の連絡先は後日公開いたします。）

※事前にオンライン大会登録受け付けシステムにて、参加登録と参加費の支払いが必要です。  
オンライン大会登録受け付けシステム <https://www.e-naf.jp/stomach/meeting/LSJ/lsj161/member/>  
※参加登録と参加費の振り込みを済ませた方のみに、学会 Zoom URL をお知らせします。

\*\*\*\*\*

## — 第 1 日（11 月 21 日） —

10:00–11:50	口頭発表（詳細は 2–3 頁にあります。）
12:40–13:40	ポスター発表（詳細は 4 頁にあります。）
13:50–17:50	口頭発表（詳細は 2–3 頁にあります。）
18:00–20:00	評議員会（評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）

## — 第 2 日（11 月 22 日） —

10:00–12:00	<p>公開講演</p> <p><b>Minimalism: where we are now, and where we are going.</b></p> <p>In this lecture, we assess the current state of the minimalist inquires in the generative linguistics, reviewing their historical and philosophical backgrounds, and project some prospects and possible directions for the further progress, demonstrating some imminent challenges and obstacles. With time permitting, we will see some recent technical developments that accord with the minimalist desiderata for the generative linguistics.</p> <p>Invited Speaker: Noam Chomsky (University of Arizona/MIT)</p> <p>Moderator: Masayuki Oishi (Tohoku Gakuin University)</p> <p>Discussants: Sandiway Fong (invited, University of Arizona)</p> <p>Hisatsugu Kitahara (Keio University)</p> <p>Takashi Toyoshima (Tohoku Gakuin University)</p>
12:00–12:30	会長挨拶，日本語学会学会賞授賞式
14:00–16:00	ワークショップ（詳細は 4 頁にあります。）

\*B-8, D-3, F-2 の発表を除き，大会後一週間の間，Zoom クラウド記録を公開します。

■口頭発表（11月21日(土) 10:00-17:50)

	A会場 司会：[1-3] 山越 康裕, [4-6] 堀 博文, [7-9] 沈 力	B会場 司会：[1-3] 狩俣 繁久, [4-6] 内海 敦子, [7-9] 金 善美
10:00-10:30	[A-1] 宮川 創 コプト語他動詞の形態変化と名詞抱合	[B-1] 重野 裕美, 白田 理人 北琉球奄美大島方言の助詞 ba の二つの機能－対格標示と取り立て－
10:40-11:10	[A-2] Chihiro TAGUCHI Raising to quirky subject in Tatar	[B-2] 横山 晶子 自然談話において焦点呼応はいつ現れるか？－琉球沖永良部国頭方言の場合－
11:20-11:50	[A-3] 菱山 湧人 チュヴァシ語の位格・奪格における /t/ と /ʈ/ の交替について	[B-3] 中澤 光平, セリック ケナン, 麻生 玲子 南琉球諸語における漢語の借用時期と音変化の相対年代
11:50-12:40	(休憩)	(休憩)
12:40-13:40	(ポスター発表)	(ポスター発表)
13:50-14:20	[A-4] 吉田 樹生 シンハラ語における数標示の形態論的有標性と頻度	[B-4] 呉 蘭 中国語使役マーカー「讓」の相互性について
14:30-15:00	[A-5] 山部 順治 オリア語のコピュラ節に見られる、名詞句階層に関する制約	[B-5] 佐近 優太 インドネシア語の使役動詞における構造的選好性
15:10-15:40	[A-6] 村上 武則 ナガミーズ語の所有表現	[B-6] 前田 宏太郎 使役接辞-(s)ase の意味機能
15:40-16:00	(休憩)	(休憩)
16:00-16:30	[A-7] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の VS 構文による語りの構造化	[B-7] 金 智賢 動作性名詞述語文の日韓対照研究
16:40-17:10	[A-8] 張 氷穎 日常会話の語りにおける聞き手行為の産出プロセス	[B-8] 林 廷修 外来語動詞的用法の文法的特徴に関する日韓対照研究－スル・ハダ動詞と機能動詞表現を中心に－
17:20-17:50	[A-9] 今村 怜 後置文の機能的分析	[B-9] 荒川 慎太郎 西夏文字における「点」の出現環境と機能

	C会場 司会：[1-3] 北原 真冬, [4-6] 桐生 和幸, [7-9] 佐々木 冠	D会場 司会：[1-3] 小野 創, [4-6] 田村 幸誠, [7-9] 越智 正男
10:00-10:30	[C-1] 松原 理佐 日本語を母語とする英語学習者による第二言語英語文処理における CV/C 分節選好の転移	[D-1] 森竹 希望 小節の特異性に関して：節らしさと選択関係
10:40-11:10	[C-2] Hiroki KOGA Affix allomorphy determined by uniformity of paradigmatic prosodic patterns	[D-2] 林 慎将 主要部内在型関係節の長距離選択分析、関連性条件の統語的誘因：黒田分析再考
11:20-11:50	[C-3] 広瀬 友紀, 伊藤 愛音 近畿方言におけるアクセント式の知識と予測処理：茶色「の」きつねと茶色「の」きりん	[D-3] ZHANG Qianqian The choice between correlative and non-correlative relative clauses in Sanskrit
11:50-12:40	(休憩)	(休憩)
12:40-13:40	(ポスター発表)	(ポスター発表)

13:50-14:20	[C-4] 外賀 葵 モンゴル語アラシャ方言の阻害音に見られる脱オイラト語化と中間性	[D-4] CHIDA Satomi A contrastive analysis of concessive conditional clauses in Marathi and Japanese
14:30-15:00	[C-5] 深谷 康佳 ケラビット語バリオ方言のいわゆる「有声帯気音」に関する考察	[D-5] MUYI YANG Distributivity and collectivity in the world domain: Evidence from Japanese modality
15:10-15:40	[C-6] 倉部 慶太 有気音と緊喉母音の相互排他性	[D-6] Artemii KUZNETSOV Grammaticalisation of motion verbs in Japanese: <i>Iku</i> and <i>kuru</i> revisited
15:40-16:00	(休憩)	(休憩)
16:00-16:30	[C-7] 韓 喜善, 難波 康治 母音間における撥音の知覚判断—子音の閉鎖の度合いについて—	[D-7] Hideaki YAMASHITA Particle stranding ellipsis in Japanese involves LF-copying, not PF-deletion
16:40-17:10	[C-8] 高城 隆一 鹿児島県大隅半島内之浦方言における2種類の閉音節	[D-8] 原田 祐介 日本語における2種類の Comparative Deletion
17:20-17:50	[C-9] 山岡 翔 ベトナム語ハノイ方言の二重母音の音韻表記について：音響的観点からの検討	[D-9] 松本 大貴 日本語における助数詞を含む解釈が義務付けられた省略

	E会場 司会：[1-3] 滝浦 真人, [4-6] 尾谷 昌則, [7-9] 中村 渉	F会場 司会：[1-3] 杉崎 鉦司, [4-5] 窪田 悠介
10:00-10:30	[E-1] 山本 尚子 反復表現「AことはA」に関する一考察	[F-1] 日高 俊夫 統語的複合動詞「V-ぬく」の意味構造と統語
10:40-11:10	[E-2] 金沢 じゅん 文末の「ト思ウ」と英語の一人称・二人称代名詞の語用論的機能の同等性	[F-2] 林 則序 日本語の格助詞と副助詞・係助詞との語順の, Nanosyntaxによる記述
11:20-11:50	[E-3] 加藤 恵梨 会話で用いられる「ある意味」について	[F-3] 吉田 遼, 能地 宏, 大関 洋平 再帰的ニューラルネットワーク文法によるヒト文処理のモデリング
11:50-12:40	(休憩)	(休憩)
12:40-13:40	(ポスター発表)	(ポスター発表)
13:50-14:20	[E-4] 森 貞 「～のお持ち {の/でない} 方」という表現について—「お+動詞連用形」の捉え方をめぐって—	[F-4] 野元 裕樹, 大久保 弥, 佐近 優太 日本語コーパスの談話構造アノテーションに向けた予備的研究
14:30-15:00	[E-5] 氏家 啓吾 「清水購入した」という表現—使用基盤モデルから見た意味の伝染と語形成—	[F-5] 谷川 みずき ノルウェー語の付加詞形容詞における一致のゆれ: 意味に注目したコーパス研究
15:10-15:40	[E-6] トン イ, 盧 濤 日本語における新しい認知類型論的試み—話し手の言語化形式をめぐって—	
15:40-16:00	(休憩)	
16:00-16:30	[E-7] 新山 聖也 述語名詞「-すぎだ」の内項主語構造における他動詞と非対格自動詞の比較	
16:40-17:10	[E-8] 長谷川 拓也, 大関 洋平 分散形態論と日本語の動詞由来複合語	
17:20-17:50	[E-9] 廉田 浩 否定述語形式と進行相表現形式との相関および近代英語でのそれらの通時変化	

■ポスター発表（11月21日(土) 12:40-13:40）

12:40-13:40	[P-1] Shao-Ge WANG, Pei-Zhi WU, Yun-Qian YAO, Hideki MAKI On long distance genitive subject licensing in human language
	[P-2] Nikolai KONOVALENKO ロシア語を母語とする日本語学習者の発音における子音連続と有声性同化
	[P-3] 張 震, 牧 秀樹 エヴェンキ語における属格主語の分布
	[P-4] 平田 秀 三重県尾鷲方言の人名アクセントと呼びかけイントネーション

■ワークショップ（11月22日(日) 14:00-16:00）

14:00-16:00	[W-1] 危機方言のプロソディー 企画者・司会者: 窪蘭 晴夫
	[W-1-1] 天草市本渡方言における呼びかけのイントネーション 松浦 年男
	[W-1-2] 喜界島方言における動詞のアクセント単位の拡張と真偽疑問文末のプロソディー 白田 理人
	[W-1-3] 南琉球宮古語伊良部佐和田方言のアクセント体系の初期報告 五十嵐 陽介
14:00-16:00	[W-2] 理論言語学を科学哲学する：生成文法、形式意味論、認知言語学の未来 企画者・司会者: 山泉 実
	[W-2-1] 言語の科学的説明：その展望と課題 成田 広樹
	[W-2-2] 形式意味論研究における理論構築について 窪田 悠介
	[W-2-3] 非（自然）科学としての認知言語学 田中 太一
	[W-2-4] 容認性判断を用いた言語研究の有用性と公正性 太田 陽

## お知らせ

- ◆Zoom へのアクセスについて  
Zoom 接続に必要な機器・環境（ウェブカメラ、パソコン/タブレット、マイク/イヤホン、インターネット接続）は、参加者各自でご準備ください。
- ◆大会参加費  
大会に参加するには、事前の参加登録が必要です。参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円です。**学会 Zoom へのアクセス方法は、事前登録と参加費の支払いをお済みの方のみに、11 月 18 日前後にお送りします。**お早めにご登録ください。
- ◆予稿集  
予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っていません。
- ◆手話通訳などについて  
今回はオンライン開催のため、手話通訳はごさいませんが、代替処置等につきましては、個別にご相談ください。
- ◆書籍展示  
書籍展示は、ウェブ上になります。各書店の特設サイト等を学会ホームページに掲載します。
- ◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー  
大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。

## 事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



### 次回大会予告（2021年春季大会：第162回大会）

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス

（〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1）

日 程：2021年6月26日（土）・27日（日）

公開シンポジウム、口頭発表、ワークショップ、ポスター発表

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

・発表応募締め切り 2021年3月20日（金）（必着）

・採否通知 2021年4月中旬

\*開催形態に関しましては、現地開催を予定しておりますが、諸事情により、オンラインになることもございます。

#### 問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com